

特定非営利活動法人日本都市計画家協会 北海道支部

全国まちづくり会議 2008 北海道 準備会議

日 時 2007年5月16日(金)
18時00分～19時30分
会 場 北海道立道民活動センター
(かでる2.7) 5階 510会議室

《議事次第》

1) 開会挨拶(5分)

NPO日本都市計画家協会 小林英嗣副会長・北海道支部長
～「全国まちづくり会議 2008 北海道の開催趣旨について」

2) ミニ講演会 恵庭市長 中島興世氏(30分)

～「恵庭のまちづくりと全国まちづくり会議への期待」(仮題)

3) 全国まちづくり会議 2008 北海道開催概要について

NPO日本都市計画家協会 高橋明男副支部長

4) 開催内容等に関する意見交換

- ・全体テーマ、分科会テーマについて
- ・全体プログラム、タイムスケジュールについて
- ・連携イベントについて(美しいまちづくり研究会の提案など)
- ・アフターツアー等について(シーニック体験プログラムなど)
- ・その他

資料

- 資料1 全国まちづくり会議 2008 北海道 準備会議出席者名簿
資料2 全国まちづくり会議 2008 北海道 開催企画案
資料3 全国まちづくり会議 2008 北海道 会場レイアウト案
資料4 全国まちづくり会議 2008 北海道 オプショナルツアー企画
資料5 全国まちづくり会議 2008 北海道 家協会研究会企画

全国まちづくり会議2008北海道 準備会議 出席者名簿

	氏 名	所 属
開発局	菅崎 栄	北海道開発局事業振興部都市住宅課
	塚田 秀和	北海道開発局事業振興部都市住宅課
道	大篠 雅昭	北海道建設部都市計画課
恵庭市	中島 興世	恵庭市長
	柴山 俊雄	恵庭市企画財政部都市計画課
札幌市	米田 智広	札幌市市民まちづくり局都市計画部都市計画課
連携団体	泉谷 清	恵庭市市民プラザ・アイル
	大津 晶	小樽商科大学
	かとう けいこ	有限責任中間法人シーニックバイウエイ支援センター 事務局長
	神長 敬	株式会社キタバ・ランドスケープ・プランニング
	窪田 映子	株式会社キタバ・ランドスケープ・プランニング
	鈴木 宏一郎	北海道宝島旅行社
家協会支部会員	荒 精一	荒精一技術士事務所（仮）
	大柳 幸彦	株式会社北海道上毛
	木本 晃	北海道総務部行政改革局 試験研究機関改革推進室
	桑田 雄平	株式会社ドーコン
	後藤 厚	株式会社ドーコン
	後藤 孝一郎	株式会社北海道日建設計
	小林 英嗣	北海道大学（家協会北海道支部 支部長）
	酒本 宏	株式会社グランドデザイン
	佐々木 幸枝	株式会社環境設計
	佐藤 敏雄	株式会社ドーコン（家協会北海道支部 幹事長）
	高橋 明男	日本データサービス株式会社（家協会北海道支部 副支部長）
	田村 亨	室蘭工業大学（家協会北海道支部 副支部長）
	得能 裕明	
	灘本 紀久	北海道ガス株式会社
	山重 明	株式会社ノーザンクロス（家協会北海道支部 事務局長）
山本 謙一	アウラアソシエーツ都市建築設計	
	矢野 ひろ	家協会北海道支部事務局

全国まちづくり会議 2008 北海道 開催企画案

1. 主催団体

主催：特定非営利活動法人日本都市計画家協会

後援：関係省庁、北海道、恵庭市、関係団体等 協賛：民間企業、民間団体等

2. 参加団体

全国及び道内のまちづくり団体（30～50 団体を予定）

民間企業、行政機関、関係団体等

3. 開催日時

2008 年 10 月 4 日（土）13 時 00 分～10 月 5 日（日）16 時 30 分

4. 開催場所

北海道恵庭市 恵庭 R B パークセンタービル（1F・3F）

住所：恵庭市恵み野北 3 丁目 1 番 1 TEL：0123-36-3113

交通：JR 恵み野駅まで新千歳空港駅から 12 分・札幌駅から 25 分

5. 会場概要

【1 階】交流展示ギャラリー： フロント・見本市・企業展示

交流展示室 ： 参加団体パネル展示・テーマ別分科会

【3 階】視聴覚室・大研修室： 開会式・シンポジウム・総括フォーラム・閉会式

研修室（5 室） ： 交流サロン・フリーイベント・スタッフルーム

6. タイムスケジュール

【1 日目】10 月 4 日（土）

09:00～12:00 開場・受付開始 / 出展者設営開始

13:00～13:50 オープニングセレモニー

14:00～15:50 テーマ別分科会 Part.1

16:00～17:50 フリーセッション

18:30～20:30 交流パーティ

【2 日目】10 月 5 日（日）

10:00～12:00 テーマ別分科会 Part.2

13:00～14:50 シンポジウム

15:00～16:00 総括フォーラム

16:00～16:30 クロージングセレモニー

16:30～18:00 撤収作業

7. プログラム

【1日目】

オープニングセレモニー

- ・開会宣言 : 参加団体代表 (最も遠くからの参加者、最多参加者など)
- ・主催者挨拶 : NPO 日本都市計画家協会
- ・開催市挨拶 : 恵庭市長
- ・参加団体紹介 : リレーコメント (30 秒アピール)
- ・ガイダンス : 事務局

見本市 (1日目~2日目)

- ・道内の参加地域の「売りもの」を展示販売 : 北海道遺産・シーニックと連携
- ・全国の参加地域の「売りもの」を展示販売 : 参加団体から募集
- ・参加者によるコンテストを実施 : クロージングセレモニーで発表・表彰

企業展示 (1日目~2日目)

- ・協賛企業の活動展示 : パネル、広報資料、映像資料等 (パソコン持ち込み)
- ・地域連携、産学連携、産消協同、環境活動、文化活動などのテーマを設定

テーマ別分科会 (1日目~2日目)

- ・まちづくり活動展示 : パネル、広報資料、映像資料等 (パソコン持ち込み)
- ・まちづくり活動発表 : 各団体の活動を紹介 (1日目)
- ・ディスカッション : コーディネーターを中心にテーマを設定 (2日目)
- ・分科会のまとめ : コーディネーターを中心に提言等を取りまとめ

フリーセッション (1日目)

- ・交流サロン : 参加者相互の自由な情報交換、交流の場 (カフェスペース)
- ・フリーイベント : 参加者の企画・発案によるミニフォーラム、交流イベント等
- ・参加者からフリーイベントの企画・提案を事前に募集 (特別の設備を要しないもの)
- ・家協会の研究会によるセッション (各研究会から企画・提案を募集)

交流パーティ

- ・会場 : RBパークセンタービル駐車場 + 交流展示ギャラリー
- ・概要 : 屋台方式、サッポロビール協賛、テイクアウト
- ・課題 : 地産地消、地元との連携、無駄を出さない、エコ食器など

夜なべ談義など

- ・1日目の交流パーティ終了後の二次会、夜なべ談義等の場所確保が課題
- ・地元の飲食店等の参加協力、恵庭RBパークの宿泊施設の活用、その他

【2日目】

シンポジウム

- ・形式： 対談形式（伊藤滋氏 vs 進士五十八氏）
- ・テーマ： 都市と森林のリンケージ（仮称）
- ・コーディネーター： 氏
本部・企画運営TF担当

総括フォーラム

- ・テーマ別分科会報告 : 各分科会の提言等の報告（3分間スピーチ）
- ・フリーセッション報告 : 各セッションの内容等の報告（3分間スピーチ）
- ・参加団体からのコメント： フリートーク（3分間スピーチ）
- ・全まち2008の総括 : コーディネーター 氏

クロージングセレモニー

- ・コンテストの発表・表彰： パネル展示コンテスト、見本市コンテスト
- ・開催市挨拶： 恵庭市長
- ・主催者挨拶： NPO 日本都市計画家協会
- ・閉会宣言 : 次回開催地（東京？）

アフターツアー

- ・まちづくり観光ビジネス研究会が主体となり企画、広報、集客等を担当
- ・道支部ではシーニックバイウエーのルートを中心に体験・交流ツアーを想定
- ・シーニックバイウエー支援センター、北海道宝島旅行社に協力を要請済み

8 . テーマ

1) 全体テーマ案

「地域力・エンパワーメント」

2) 分科会のテーマ設定等

- ・ 当面「環境」「景観」「交流」「健康」「文化」・・・など大きなテーマで発信
- ・ 参加団体の活動内容、テーマ等に応じて分科会のテーマ、構成等を設定
- ・ 分科会のコーディネーターをあらかじめ定め、テーマ設定、運営等を担当

3) 家協会研究会の企画等

美しいまちづくり研究会

～ プレイベント（ガーデンアイランド視察ツアー）+ 花緑団体の活動発表・交流

中心市街地活性化研究会

～ 商店街診断評価プログラムのデモンストレーション

首都圏直下地震グランドデザイン研究会（広域ゼロメートル市街地研究会）

～ 広域ゼロメートル市街地・2058 プラン展示

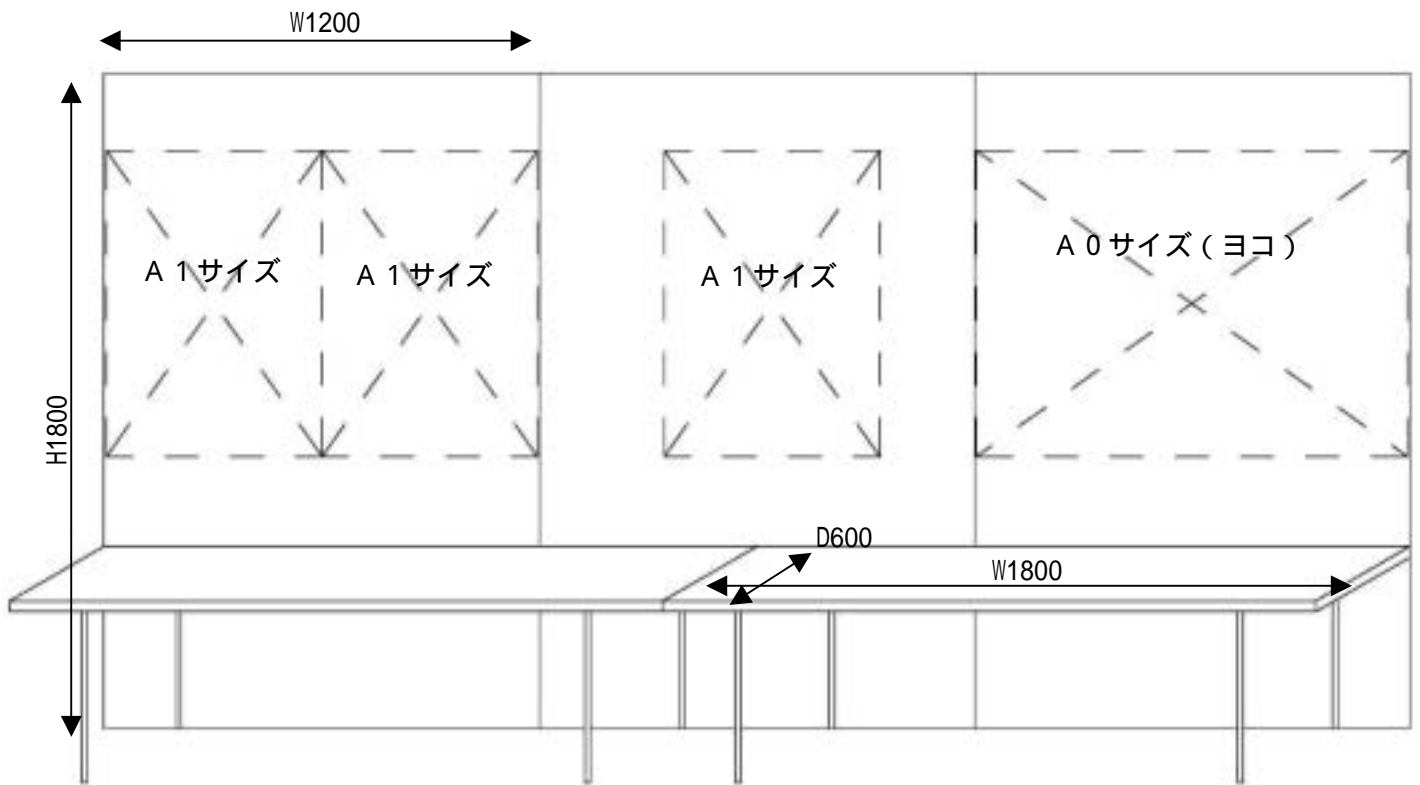
まちづくり観光ビジネス研究会

～ ポスターセッション、講演会、パネルディスカッション等

その他、複数の研究会で検討中

以上

パネル1ユニットのレイアウト案



W1200 (パネル幅) を1団体とする場合

パネル30枚で30団体

W1800 (テーブル幅) を1団体とするか

パネル30枚で20団体

関係各位

全国まちづくり会議 企画運営担当 野口浩平

全まちオプショナルツアー企画について

全まちも3回目を迎え、ついに北海道という地方開催を行うことになりました。

全国津々浦々のまちづくりを支援するという全まちの理念から見ても、この北海道開催は大変意義深いものがあります。

そこで、地方開催の困難さはあるものの、逆にそれを活かすことによって、理念の実現を図りたいと考え、オプショナルツアープロジェクトを企画いたしました。

道内のまちについて、大変造詣の深い皆様方にご協力たまわれれば幸いに存じます。

コンセプト

1、地方開催の魅力向上

日本列島の北の端である北海道での開催は、その距離が参加意識を大きく減退させる恐れがあります。しかし、全まちに参加するだけでなく、旅としての魅力が付加されることにより、参加への動機付けは大きくふくらみます。しかも、その旅行が単なる旅行会社のツアーではなく、まちづくり人が案内する、住んでいる人だから知っている北海道であれば、その魅力はいっそう大きなものとなるに違いありません。

2、北海道まちづくり団体の参加意識向上

オプショナルツアープロジェクトは、訪ねたい人と招きたい人をつなげるプロジェクトでもあります。まちに人を呼び込みたいと考える方々は、会場に来てまちの魅力をPRするチャンスです。今回のツアーは予約制にせざるを得ませんが、多くのまちづくり団体に交流を呼びかけることができます。

3、まちづくり団体の交流の実現

今回のオプショナルツアーに参加する方は、基本的に全まち参加者です。つまり、どこかのまちのまちづくり団体やその関係者の方々です。観光としての旅の楽しさも然ることながら、他のツアーでは絶対に味わうことの出来ない、まちづくりの現場を見ることが出来ます。それぞれのまちが抱える問題や、活動の楽しさを語り合いながら過ごす旅は、又格別の魅力があるのではないのでしょうか？

ツアー企画（例）

人数：15名～20名くらい

日程：10月6日（日帰り）

10月6日から10月7日（一泊二日）

行程：札幌発（9：00AM頃）

移動：バス

昼食：地元特産を使用した料理

目的地：現地の方々と交流（情報交換会、懇親会）

宿泊：そのまちらしさのある宿（一泊二日の場合）

観光：そのまちならではの魅力の紹介

移動：バス OR レール

空港着：解散

* 上記は、あくまで素人のイメージにすぎません。

- 1、ツアーの内容はおまかせいたします。良いと思われるコースを教えてください。
- 2、2コース（一泊 OR 二泊）くらいご紹介頂けると助かります。
- 3、集客はこちらで行います。最低催行人数と、集客期限を教えてください。
- 4、エアーはこちらで手配いたします。他にこちらで手配した方が良いことがあればお報せください。

以上、お忙しいところ恐縮ですがよろしくお願ひいたします。

全国まちづくり会議2008

in北海道えにわ 2008年10月4日(土), 5日(日)

● 全国まちづくり会議 2008 5月度特別委員会 (第4回)

5月14日(水) 16:00～ 家協会会議室

連携事業での「美まち研」の役割について

1. プレイベントととしてガーデンアイランド 北海道視察研修ツアー
2. 10月4日(初日)にプレイベント報告と地元緑花活動団体発表と交流会参加

前回の会議でのご意見を踏まえ下記のような仕切り直し案を検討中です

◆検討案 ①

1. ガーデンアイランド北海道 2008 会期中(4.26～10.31)で花が綺麗な時期の視察・見学ツアー

- ①目的：開催地周辺の花緑団体との交流(美まち研)・全まち会議の広報(連携)・全体の打合せ(委員会)
②方法：7月～8月に1泊2日程度の開催地での現地見学と「全まち会議 2008」の広報・現地打合せ
③募集・参加方法：？ ④運営主体？ ⑤視察先・視察日？ ⑥人数？ ⑦現地連絡窓口？

2. 「全まち会議 2008」10月4日(初日)に交流会で参加・報告

- ①目的：プレイベント等で交流ができ、参加希望の地元団体の参加・交流
②方法：分科会方式？

※ いずれにしても北海道の全体構想が決定後・「美まち研」関わり方決定後での参加協力を希望

※ 次年度・次々年度を考えた参加検討をベースとします

————— メモ —————

「商店街診断評価プログラムのPR企画 in 全まち」

美しいまちづくり研究会
中心市街地活性化研究会

経緯（以下の覚書が前提）

東京商工会議所地域創造センター（甲）が特定非営利活動法人日本都市計画家協会（乙）に委託し、乙が研究・作成した『商店街評価プログラム』については、甲及び乙が管理を共同で行う。

「商店街評価プログラム」とは、甲が乙に委託し、乙が研究・作成した評価シート、合議によるデータ集約プロセス及び評価結果方法をいう。

第三者が「商店街評価プログラム」を活用する場合、「商店街評価プログラム」の著作者として、甲と乙を併記することを義務づける。

全まち 2008 準備

1. 日本都市計画家協会が、東京商工会議所から受託し、納品した「商店街魅力・地域力診断表」
完成品のみをパネル展示する。

平成19年度実績（地蔵通り、教会通り新栄会、戸越公園前南口）

平成18年度実績（鷺宮、荏原町、永福町、世田谷駅前、薬師アイロード、自由が丘、赤羽スズラン通り）

2. **商店街評価プログラムの評価項目、評価方法等もパネル展示する**

- ① まちなみの美しさ、
- ② まちの歩きやすさ、
- ③ まちの使い方のきれいさ、整い方、
- ④ まちのにぎわいや楽しさ、
- ⑤ 日常生活を支える機能
- ⑥ 広域集客を支える機能、
- ⑦ 公益的・社会的活動のレベル

- ・上記7つの診断指標（大項目）毎に、評価項目（小項目）を設定し（全部で約50）、評価基準（全部で約300）ごとに評価し、結果はレーダーチャートでわかりやすく提示されるもの。なお、東商では、来街者アンケート調査も行っている

この事業の狙いは、“ものを売る機能”中心の商店街から、住民が期待するアメニティ機能、商業機能、公共公益機能が充実し、バランスのとれた社会空間、新しいコミュニティの核としての商店街づくりを目標としている。

- ・その結果から課題を発見し、具体的な改善を促し、その後毎年の行動成果を継続的にチェックし、対象商店街が互いに切磋琢磨するような仕組みを目標としている。

3. 北海道内の商店街を選んで「**商店街評価プログラム**」を実施する

課 題： インストラクター（候補－鈴木俊治さん）・リーダー・実施者

予 算：

対象商店街： 札幌狸小路商店街振興組合、恵庭市内商店街 その他
（比較のため、複数実施が、また提言後のフォローアップもしたい）
（東京都内で実施したものは、近隣型商店街が対象）

4. 大きな課題

「美しい街づくり、商店街づくりの運動化」

全国市長会等への働きかけ。スポンサーを探すこと

その他

「中心市街地活性化研究会」の参加検討

【法定中心市街地活性化協議会】

商工会議所管内 91 協議会、

商工会管内 8 協議会（兵庫県丹波市、宮城県利府町、兵庫県川西市、熊本県植木町、岩手県遠野市、
熊本県菊池市、宮城県名取市、熊本県山都町）

（平成 20 年 3 月 23 日現在）

平成 19 年 2 月 8 日－ 富山市（富山県） 青森市（青森県）

平成 19 年 5 月 28 日－ 久慈市（岩手県） 岐阜市（岐阜県） 府中市（広島県） 山口市（山口県） 高松市（香川県）
金沢市（石川県） 熊本市（熊本県） 八代市（熊本県） 豊後高田市（大分県） 長野市（長野県）
宮崎市（宮崎県）

平成 19 年 8 月 27 日－ 帯広市（北海道） 浜松市（静岡県） 砂川市（北海道） 和歌山市（和歌山県）
千葉市（千葉県）

平成 19 年 11 月 30 日－ 三沢市（青森県） 越前市（福井県） 高岡市（富山県） 鳥取市（鳥取県） 福井市（福井県）

平成 19 年 12 月 25 日－ 鹿児島市（鹿児島県）

平成 20 年 3 月 12 日－ 滝川市（北海道） 宝塚市（兵庫県） 柏市（千葉県） 久留米市（福岡県） 新潟市（新潟県）
日向市（宮崎県） 奈良市（奈良県） 藤枝市（静岡県）

「広域ゼロメートル市街地・2058 プラン」展示

○ 背景

- ・ 東京, 名古屋, 大阪においては, 工業化に伴い広い範囲で地盤沈下が進み, ゼロメートル地帯が存在し, そこに高密な市街地が形成されている. 世界的にも類をみない市街地である. こうした市街地を「広域ゼロメートル市街地」と呼ぶ.
- ・ 今後の長期的な気候変動や地球温暖化をふまえると, 今後, 巨大台風の到来, 海面上昇により, 平野部の洪水リスクは徐々に高まることが予想される.
- ・ また, 首都直下地震をはじめ, 大地震の発生が危惧されている. 水防施設の破損, そして復旧までの間の長雨, 大雨による地震水害が発生する可能性は無視できないとの指摘もある.
- ・ こうした状況をふまえると, 「広域ゼロメートル市街地」が抱えるリスクは極めて高い. 堤防の嵩上げ等により水防施設によるリスク低減策とともに, 市街地側の対策にも長期的に取り組んでいく必要がある.

○ 内容

- ・ 本企画では, こうした背景をふまえ, 「広域ゼロメートル市街地」の50年後を目指したビジョンを描き, 50年後の安全な市街地像を提案する. 大規模水害のリスクの低減を制約条件として, 21世紀半ばにふさわしい市街地像を志向する.
- ・ 東京の「広域ゼロメートル市街地」を対象とし, 具体の対象区域として, 中川, 荒川, 新中川, JR 総武線に囲まれた区域を取り上げる.
- ・ パネル, 及び, 模型展示. PPTのスライドショー上映.

○ 展示の目的

- ・ 「広域ゼロメートル市街地」の置かれた状況の理解促進
- ・ 現状では解答が見つけられない「広域ゼロメートル市街地」の問題を社会的に議論していくきっかけづくり
- ・ 安全をキーワードとする長期ビジョンを描く事例の提示

○ 主体

- ・ 首都圏直下地震グランドデザイン研究会 (都市計画家協会)
 - ・ 広域ゼロメートル市街地研究会 (任意団体)
 - ・ 東京大学 加藤孝明+学生
- ※ いずれもメンバーは重複している.

全国まちづくり会議特別委員会
プロモーションTF 渡会清治 様

まちあるき観光ビジネス研究会
幹事 野口浩平

「まちあるき観光ビジネス研究会」全まちプロジェクト 企画書

コンセプト:「おもてなしのまちづくり」

「おもてなしのまちづくり」とは？

「おもてなしのまちづくり」とは、今までの観光旅行のようにまちを疲弊させる観光ではなく、友人を招いておもてなしをするように、まちに住んでいる人から発信する、新しい旅行概念の確立を目指すまちづくりのことをいいます。

それは、まちを喰い荒らす外部資本だけが利益を上げるシステムではなく、まちとその住民が潤う新しい仕組みの提案です。ガイドブックではなくひとが真ん中にいる、そんな出会いに満ちた旅の提案、それが「おもてなしのまちづくり」です。

企画内容:観光を手段としたまちづくり手法の情報交換

1、ポスターセッション(各まちづくり団体の発表)

各まちづくり団体に、「おもてなしのまちづくり」について発表して頂きます。発表した頂く内容は、来外者へのサービス、まちへの貢献、収益構造、独自性、告知手段、等です。

2、講演とパネルディスカッション(タイトル:まちづくり観光って?)

観光によるまちおこしについては、今までも何度も語られてきていますが、まちづくり観光そのものの概念について語られることはあまりなかったように感じます。住民とまちと来外者、三者にとって有意義なまちづくり観光とはどんなものか?について、専門家も交えて討論を行います。

3、懇親会

発表では聞けなかった、おもてなしの詳細について、個別に情報交換しながら、語り合う時間を準備します。

効果:新しい“まちづくり観光”概念の確立

1、観光による、新しいまちづくり経済の構築

観光まちづくりをてこに、まちづくり団体が収益を得る仕組みを確立します。

2、“まち”どうしの交流の活性化

「おもてなしのまちづくり」に最も興味を持つ方々は、間違いなく自らもまちづくりを行っている方々でしょう。まちづくり団体が持っている資源は、ガイドブックに載っている内容よりずっと興味深いことを自ら知っているからです。お互いが潜在顧客である「おもてなしのまちづくり」は、日本中のまちづくり団体の交流を活性化させます。

3、地方のまちの活性化

「おもてなしのまち・むらづくり」のテーマは、住みたくなるまちへの誘いです。全国には、素晴らしい魅力を持った地域がたくさんあります。そんな地域は、観光による活性化も然ることながら、移住希望者も現れるかも知れません。まちづくりの最終目的は、住んで欲しい人を住んで欲しい場所にご紹介することではないでしょうか？

4、家協会の存在意義の上昇(まちづくり観光のハブとして機能、ホームページ上でツアーを紹介、まちづくり観光へのアドバイス等)

これらの事業は、全てわれわれ都市計画家協会の存在抜きにはありえません。全国のまちづくり団体の情報がこれだけ集中しているところは他にないからです。我々のサポート次第では、全国で自然発生的にまちづくり団体が交流を始めることになるでしょう。こうした事業が一般化して来ると、もしかしたら普通の方々でさえ、旅行に行く時 JSURP のホームページから行きたいところを選ぶことになるかもしれません。